

—わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い—
ミュージアム都留からのお知らせ

3月24日(土)より

収蔵資料展『郷土の画家展—花鳥画を中心に—』

今回は、ミュージアム都留の収蔵品より、米山朴庵、藤井霞郷、田中蘭谷など郷土の日本画家たちの作品を、これまで未公開だった作品から、花鳥画を中心にご覧いただけます。また、同じく郷土画家である五十嵐城南が描いた八朔祭の下町幔幕も展示します。

藤井霞郷

本名は藤井徳太郎。明治31年(1898年)東京市芝区に生まれる。母は旧禾生村の出身。

日本画の巨匠・川合玉堂の門下生となり、大正13年(1924年)に帝国美術院展覧会(帝展)で初入選を果たして、画家として認められる機会を得た。翌年以降、毎年帝展に出品して数回特選候補となり、注目を集めた。昭和4年(1929年)には東久邇宮家新御殿の天井画を描いて賜杯を拝受している。

その後も各展覧会に意欲的に出品するなど、力作を発表し続けたが、昭和8年(1933年)より病氣療養のため、妻の郷里である禾生村に転居した。

太平洋戦争中は生活苦や資材難により、半農半画人の生活を送った。長男の戦死など心痛も重なり、終戦後まもなく体調を崩し、病床での生活を余儀なくされた。

昭和22年(1947年)6月、日展審査員候補の推薦を受けたが、体調不良のためやむなく辞退したという。

昭和24年(1947年)2月11日に死去。享年51歳。

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、第3火曜日、祝日の翌日

観覧料 一般 300円(210円)

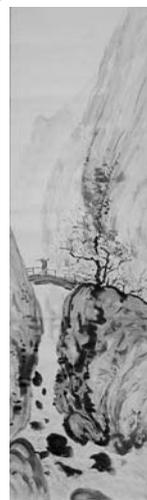
高・大学生 200円(140円)

小・中学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金

※チケットは増田誠美術館と共通券となっています。

問合せ先 ミュージアム都留 ☎(45)8008



藤井霞郷「二月の梅」

勝山城のなぞに迫る！

勝山城跡学術調査も今年度で3年目を迎えます。昨年度は市では未確認だった勝山城の絵図の発見や発掘調査などによって勝山城の謎が徐々に解かれはじまりました。

特に帯郭で行った発掘調査では石積みのようなものが新たに確認され、また、煙管・釘・陶磁器片の遺物も調査によって確認できました。これら遺物は古い年代のもので、煙管は近世初頭のもの可能性があります。

このような発掘調査の成果や勝山城跡のことを市民の皆さんにより理解していただくため市教育委員会では勝山城跡見学会を開催します。

勝山城跡学術調査の発掘調査の現地説明や勝山城跡の歴史的な背景など現地を歩きながら説明します。参加希望の方はミュージアム都留までご連絡をお願いします。

勝山城跡見学会

日時 4月22日(日)

午後1時集合(午後4時まで行方予定)

集合場所 ミュージアム都留

参加費 無料

申込・問合せ先 ミュージアム都留 ☎(45)8008



天神峠(玉川)

増田誠美術館
増田画伯が描いた山

会期 6月17日(日)まで
開館時間 午前9時～午後4時30分
会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

増田誠画伯は、平成元年1月から2月にかけて、谷村駅に近い城山温泉を仮のアトリエとして、市制施行当時の13カ町村の風景を主題とし、郷土の風景を描きました。

厳寒の冬の時期、朝早くから取材現場に画架を立て、夕方アトリエに戻り、深夜遅くまで加筆を繰り返す日々でした。画伯は平成元年4月に亡くなりましたが、この度の展示会では、増田画伯の遺作とも言えるべき、ふるさと都留を描いた13点の作品のほか、初公開の富士山を描いた作品4点を展示します。また、画伯のスケッチブック数点を展示しています。ぜひご覧ください。